

## 【活動報告】

北ブロック（北区・都島区・淀川区・東淀川区・旭区）

### 『ACP をかなえるために』

# 北ブロックの取り組み

住民が、住み慣れた地域で、安心して最後まで自分らしい生活ができる

## ACPをかなえるために



「ACPを行っていても、うまくいかないこともあるよね」

「実際ACPをどう進めたら良いか悩む」

「区民に啓発するだけでは、十分に広がっていくとは思えない」

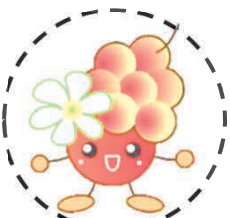
こんな会話が北ブロックであった。

そこで、各区の取り組みをお互いに知ることが、今後のACPを叶えるためのヒントになるのでは？

ということになり、このテーマを選びました。

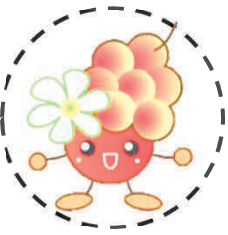
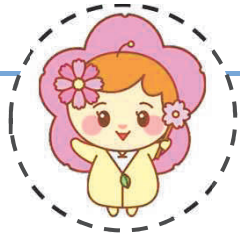
# 北ブロック

## ACPをかなえるために



# 北ブロック

## ACPをかなえるために



地域とのつながり

淀川区

地域とのつながり

**淀川区** の取り組み

夢ちゃんマイノート・  
もしバナゲームから  
地域住民への周知へ



# ACPの淀川区の取組み

多職種連携のための研修会の開催

『単身独居の生活保護受給者の看取りについて』

- ・生前からの準備、確認、調整
- ・関係者全員の情報共有
- ・最期のときに、連絡する親族はいるのか？
- ・葬祭業者を決め、きちんと本人に書面で意思表示し、依頼先を記載していただく。



エンディング  
ノートが  
あれば・・・

# ACPの淀川区の取組み

令和元年大阪市高齢者実態調査報告書より

★人生会議（ACP）の認知度が低く、人生の最終段階についての話し合いについても「ない」の割合が高かった。

★淀川区は地域包括支援センター、ランチの周知度が最下位であった。



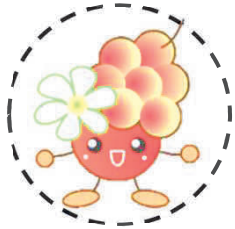
地域支援4事業で周知活動

地域住民への啓発活動  
～夢ちゃんマイノート・もしバナゲーム～



# 北ブロック

## ACPをかなえるために



医・介 連携

**北区**の取り組み

北区

医・介連携



多職種・多機関との連携

取り組みのきっかけ

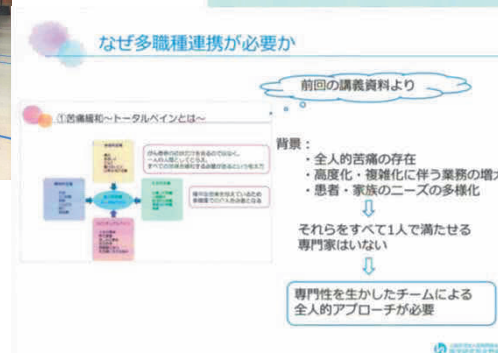
病院から退院後すぐに、再入院の依頼や入所依頼のケース  
⇒ 本人・家族・ケアマネジャー・訪問看護師など支援者が方針  
の共有ができていないことも...



# 取り組みの実際

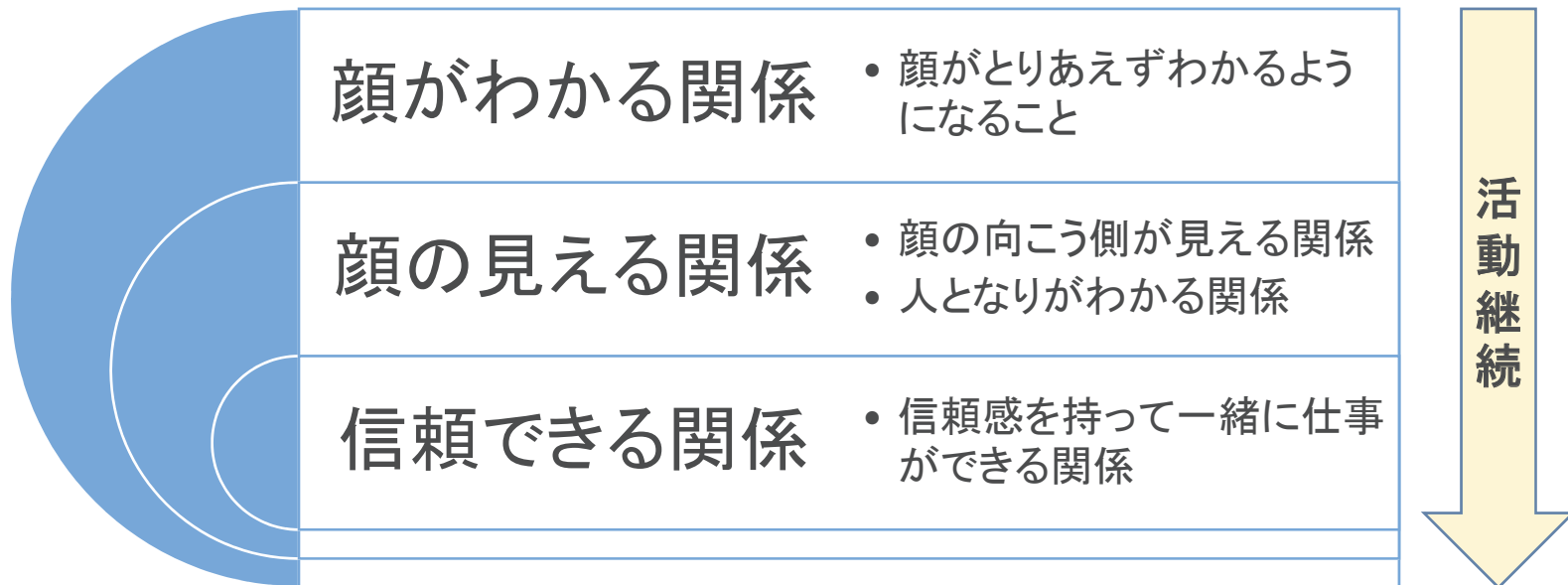
～研修の協力・共催～

- ・ 居宅支援事業所連絡会 交流会共催
- ・ 居宅支援事業所連絡会 法定外研修開催の協力
- ・ 訪問看護ステーションステーション協会研修会  
コロナ訪問看護との連携を発表



12

# これからの目標



森田達也「地域緩和ケアにおける「顔の見える関係」とは何か？」  
PalliativeCareResearch7(1),323-333,2012.日本緩和医療学会から一部引用

関係構築



ACPの理解

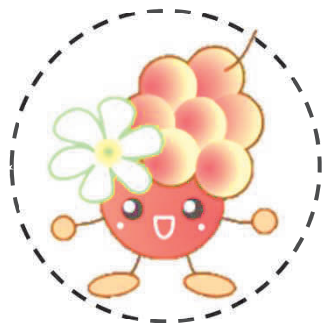
ACPを理解し意思決定支援ができるように！

# 北ブロック

## ACPをかなえるために

東淀川区

専門職が地域に出向く



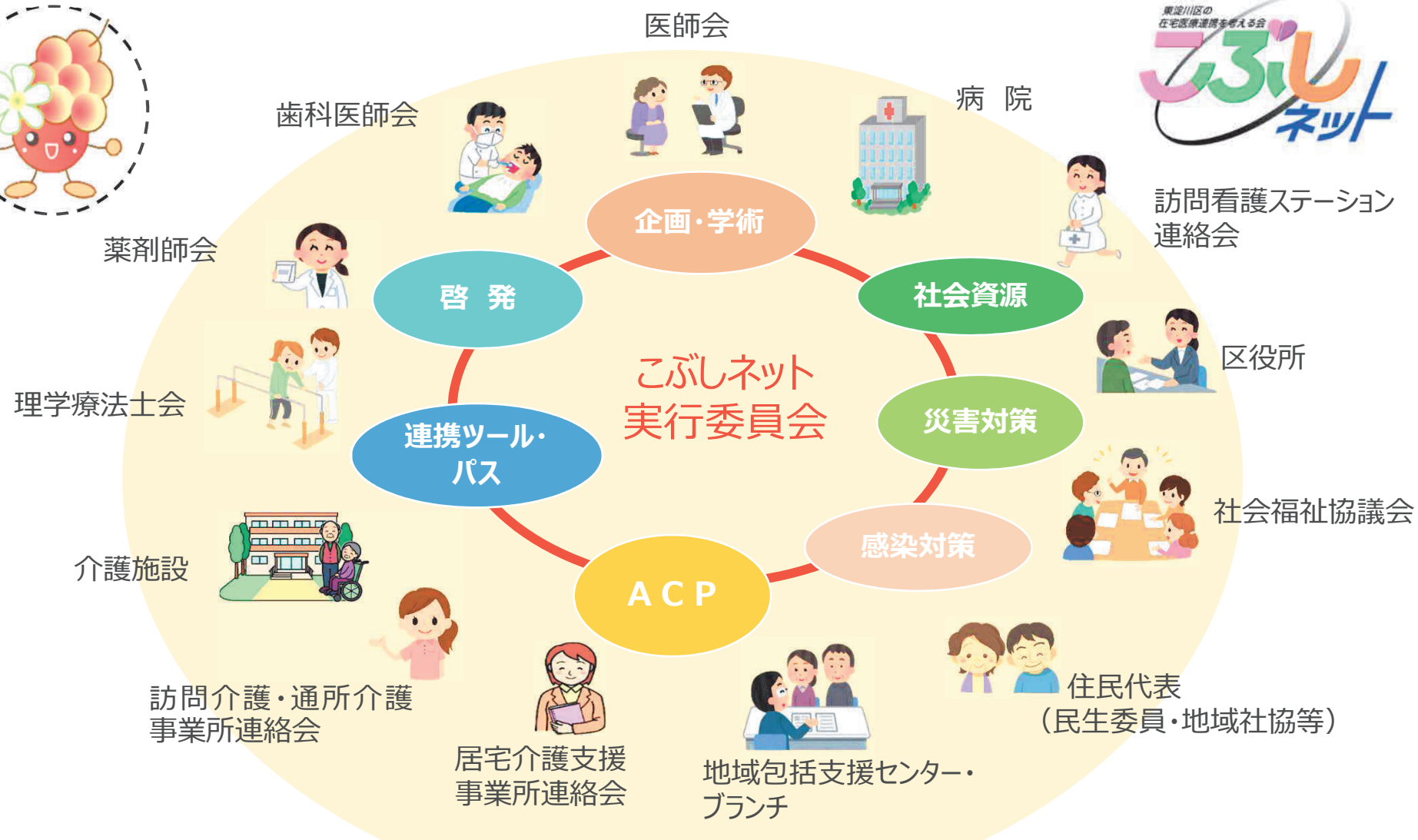
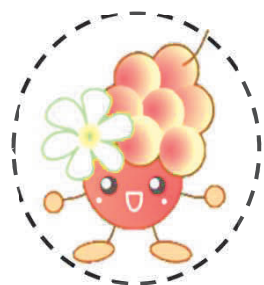
## 地域の方へ伝える

### 東淀川区の取り組み

専門職がACPについて理解

そして地域へ





平成30年 ACPグループ

市民公開講座・健康展・広報誌での啓発活動他

# 「チームACP」を結成

多職種からなるチームメンバー構成(30名): 医師、看護師、訪問看護師、行政保健師、行政保健福祉課担当者、介護支援専門員、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、MSW、薬剤師、民生委員、地域包括ケアセンター職員、医介コーディネーター等

最期まで自分の希望する医療・ケアを受けられる街に



## 「地域の方へ伝えよう、ACPを」

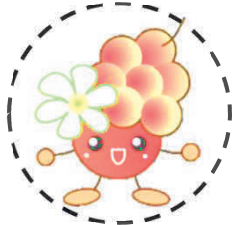
令和4年 なにわ元気塾16地域に専門職が出向き伝える





# 北ブロック

## ACPをかなえるために



自分の思い  
を伝える

**都島区** の取り組み

都島区

自分の思いを伝える

『もしもの時に伝えたいこと』

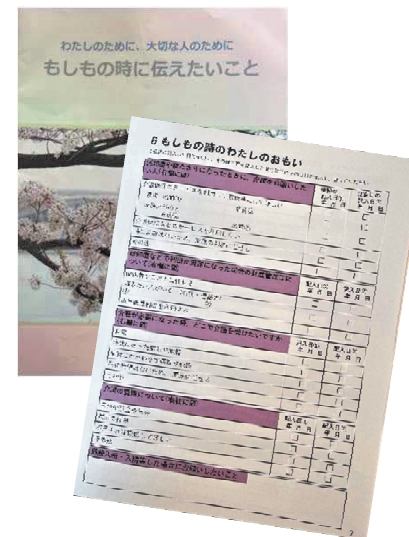
ノートの啓発

# 『もしもの時に伝えたいこと』ノートの啓発活動

(都島区在宅医療・介護連携推進協議会にて『もしもの時に伝えたいこと』令和元年度作成)

取り組みのきっかけ: 「もしもの時に伝えたいこと」  
ノートの活用が少ない!

- 課題
- ・ノートを一人で記入するには難しい。  
書いてどうなるのかわからない?
  - ・ノートを書く人と聞き取る人の温度差があると危険
  - ・ACPが浸透していない



## 啓発活動

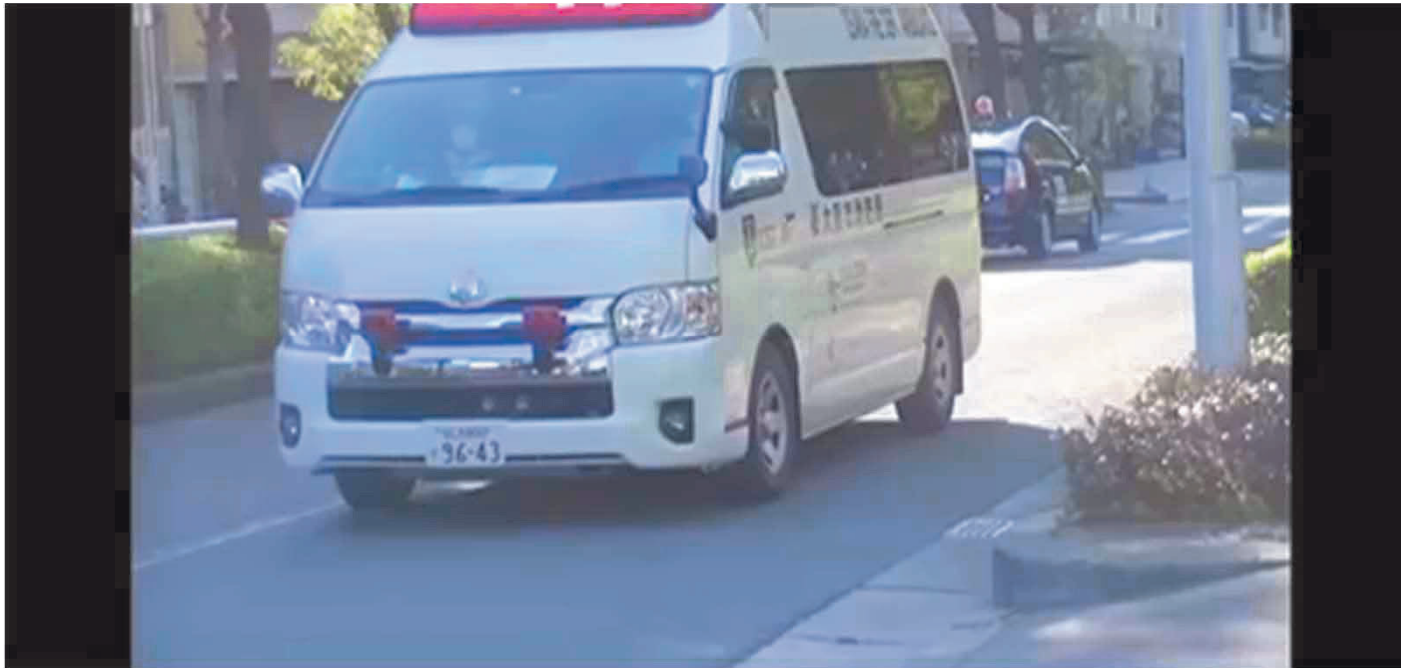
- ・認識共有を目的としたケアマネジャー学習会
- ・区民講演会:『もしもの時に伝えたいこと』
- ・啓発動画を作成⇒区民への啓発⇒YouTubeに掲載

## 『もしもの時に伝えたいこと』ノートの啓発ビデオ

医療場面編： 令和4年11月より都島区役所ホームページYouTubeで掲載中

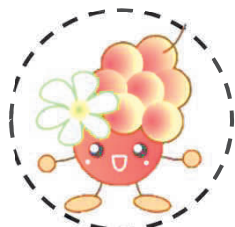
在宅編： 令和5年1月完成予定

(医療場面編)掲載中の一部



今後の課題： ネットも見ない、独居で身内や地域、専門職と関りがなく、自分の思いを伝える事が出来ない人をどのようにサポートしていくか？

## ACPをかなえるために



### 介護家族への 支援

旭区

介護家族への支援

### 旭区 の取り組み

医療・介護・福祉の専門職が  
介護家族の気持ちに寄り添い、  
連携して支えていく

# これまでACPの啓発をやってきたけれど・・・



区民 『自分の家に最期まで居たいけど、**家族に** 迷惑はかけたくない』

専門職 『ACPは広めないと…でもそこで決めたことが、  
**実際にかなうかどうか**は別よね…』



そこで『**家族介護**』に着目！！

老老介護

ヤング  
ケアラー

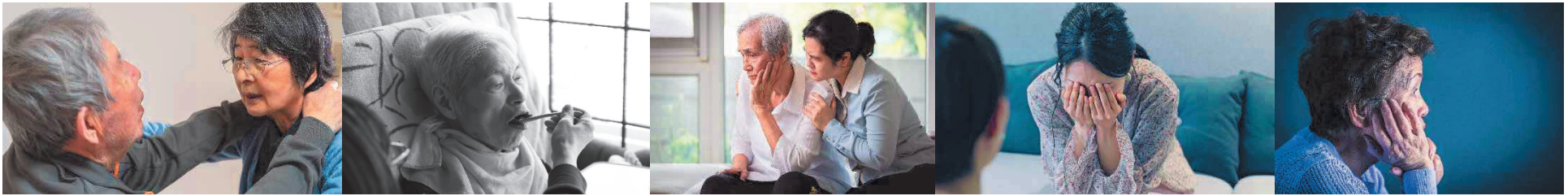
認認介護

老障介護

調べてみると。。

医療・介護サービスを利用していたにも関わらず、  
介護殺人/介護心中未遂 が起きているという現実が





○まず、家族の気持ちにただ寄り添う（「サービス増やしましょうか？」ではなくて）

**これが専門職にとっては、案外に難しいし、できていない**

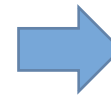
○家族が抱え込まずに相談できるように



本人・家族

子ども世代

地域へ



3つのパターンで  
啓蒙動画を作成

**学んだこと**

- ①介護家族の気持ちに寄り添い、相談してもらえる関係づくり
- ②介護家族で気になることは、多職種間で共有、連携して支える
- ③退院時は、病院・在宅チームの情報共有が不可欠

**次の課題**

独居・認知症の方でも、地域の理解で暮らすことが出来る様に  
地域へ向けて啓発を進めていく

# まとめ

- コロナ禍で、本人・家族の思いを支えられない現実があった
- コーディネーター間のACPの認識の違いに気づき、意見交換することで考える機会になった
- 専門職もACPの理解を深めていくことが必要である
- ACP啓発、講座に参加しない人・出来ない人にどう伝えていくのか課題

# ACPをかなえるために

その人の身近にいる人が、その人のナラティブに耳を傾け、その方の人となりを知り、人生をどのように送りたいか（終末も含め）語り合う（話し合う）ことが大切である



ご清聴ありがとうございました





【介護】短編映画

# 一人で抱え込まないで

子ども



地域



介護家族



旭区在宅医療・介護連携推進事業では、

旭区の高齢者が住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けることができるよう、医療と介護を一体的に提供できる体制の構築、医療・介護関係者の研修や、地域住民への普及啓発に取り組んでいます。

テーマごとの短編映画となっております。是非、ご視聴ください。

視聴者アンケートにご協力ください →

